

# ①企業誘致

## ◆政策の方向性

「若者と企業に選ばれる都市」、「稼げるまち」の実現に向けて、①投資規模の大きい「**製造業**」②雇用創出効果の高い「**IT企業**」  
③**本社機能や研究開発施設** ④陸海空の充実したインフラを活かした「**物流業**」などに重点を置いた企業誘致を推進

### <北九州市のポテンシャル>

【①理工系人材】 【②物流】 【③ものづくり】 【④学研都市】 【⑤水】 【⑥エネルギー】 【⑦BCP】 【⑧コスト】

### 【現在のKPI】

#### （目標）

○企業誘致による新規雇用創出数 累計4,000人（R2～6年度）  
○IT関連企業の誘致による雇用創出数 累計1,500人（R2～6年度）

#### （実績）

累計2,413人（R2～4年度）  
累計1,075人（R2～4年度）

※KPIの件については、「誘致件数」、「雇用数」、「市民の所得」、「投資額」などについて、北九州市未来産業創造会議の中で議論をお願いしたい。

## 企業誘致（市内企業の増設含む）の現状・実績

### 直近5年間（H30年度～R4年度）の実績

	件数	新規雇用	投資額（億円）
製造業	102	1,151	1,470
IT	115	2,618	218
物流	20	134	147
その他	33	201	876
合計	270	4,104	2,711

### <製造業の誘致>



EVモーターズジャパン  
（商用EV専用組立工場）



メック  
（半導体関連薬品）

### <地元企業の設備投資>



安川電機・YTC  
（研究開発拠点）



三菱ケミカル  
（半導体等の成長分野への設備投資）

### <IT企業の集積>



## 企業誘致にあたっての課題認識

【①企業がすぐに進出可能な**場（用地・オフィス）の不足**】 【②**未来産業（半導体等）誘致の競争激化**】 【③**未来産業を見据えた地域産業への支援**】 【④**全国的な人材不足**】

## ②物流の拠点化

### ◆政策の方向性

- ①陸・海・空の結節点周辺エリア（高速道路のインターチェンジや空港周辺など）を中心に、物流関連施設の集約を図る
- ②各種輸送モードを組み合わせ、多種多様な物流ニーズと（2024年問題、CN、BCPなど）時代の変化に対応できるまちを目指す

➡ 物流を本市の重要な産業としてさらに発展させる

＜北九州市のポテンシャル＞ 【②物流】 【⑦BCP】 【⑧コスト】

【現在のKPI】	2022～24年（短期目標値）	2022～26年の5年間	2022～31年の10年間
○物流関連施設等への民間投資額	累計 240億円	累計 390億円	累計 1,000億円
○物流関連施設等の立地件数	累計 6件	累計 25件	累計 60件
○雇用の新規創出	累計 210人	累計 550人	累計 1,600人

### 物流拠点化への取組みの現状

#### 充実した物流インフラ

#### リーディングプロジェクト（□）と具体的な取組み（○）



陸

海

空

北九州貨物ターミナル駅

新門司フェリーターミナル

北九州空港

小倉東IC

太刀浦・ひびきコンテナターミナル

コンテナ取扱貨物量  
全国第10位  
(2021年度)

フェリー取扱貨物量  
全国第2位  
(2021年)

国際取扱貨物量  
全国第6位  
(2022年度)

高速道路結節点  
(九州/東九州/中国道)

コンテナ取扱貨物量  
全国第9位  
(2021年)

24時間利用可能

#### ■北九州港と北九州空港の国際物流拠点化

- 空港機能強化（滑走路3,000m化延長、第2国際上屋整備、（新）国内貨物上屋整備）
- 航空貨物路線誘致（大韓航空、UPS、ヤマト運輸）

#### ■九州エリアの物流集約拠点の形成

#### ■九州・西中国エリアへの配送拠点の形成

- 九州と本州の結節点という地理的特性を活かし、九州発着貨物の集配送拠点の整備を目指す。その第一弾として九州発農産物を本市ストックポイントに集約。ロットを大きくし、トラックではなくフェリーによる首都圏・関西圏向けの幹線輸送（モーダルシフト）に効率的につなぐ輸送フローに対し支援を実施中
- 拠点となる大型物流施設・マルチテナントの誘致、及びその開発用地確保の取組み（民間開発の伴走支援）

#### ■物流基盤を活かした成長産業の拠点形成

#### ○物流インフラを活かした企業誘致

- ・双日/メキシケム・フロー：フッ素化合物の国内安定供給を目指し半導体サプライチェーンを強靱化
- ・メック：半導体基板向け銅表面処理剤の国内・海外安定供給により、デジタル社会の基盤を支える

#### ■産官学連携による物流施策推進体制の構築

- 物流懇話会の実施（2024年問題、物流人材確保、物流DX等）による物流の諸課題の共有・解決策の検討
- ワーキンググループ「カーボンニュートラル物流協議会」を立ち上げ。共同輸送の実施に向け協議中

### 物流拠点化にあたっての課題認識

- ①物流施設の立地可能な用地の不足
- ②物流施設開発事業者からの認知度不足
- ③TSMC等、大規模な投資が続く半導体の新たな輸送需要の取込み

### ③未来産業

#### ◆政策の方向性

今後成長が見込まれる半導体・宇宙・次世代自動車(EV・CASE)といった未来産業分野やロボット・デジタル分野の振興に新たに挑戦することにより、「稼げるまち」の実現につなげていく。

#### <北九州市のポテンシャル>

- 【①理工系人材】 【②物流】 【③ものづくり】 【④学研都市】

#### 【現在のKPI】 ※市及びFAIS等の支援により実現したもの

- 先進企業の集積（未来産業分野）
- 新ビジネスの創出（未来産業分野）

#### （目標）

- 累計 5 件（R5～7年度）
- 累計 5 件（R5～7年度）

#### （実績）

- 累計 3 件（R2～4年度）
- 累計 1 件（R1～4年度）

#### 未来産業振興の現状・実績

##### 学研における産学連携の主な成果（H13～）

- 研究開発支援企業の関連製品売上 約877億円
- 産業人材育成 約14,000名
- ※未来産業の他ほか、環境、医療等の分野も含む



北九州学術研究都市

##### 次世代自動車（EV・CASE）

- パーツネット北九州の運営（H17設立）
  - ・会員数：99社（参入支援、セミナー、人材育成講座など）
- 北九州自動運転推進ネットワーク（R3設立）
  - ・13社、2大学（勉強会、講演会、先進地視察など）

##### パーツネット北九州支援実績（R4）

- 電動化に向けた体制整備等支援：15社・16件
- マッチング支援実績：6社・21件（うち売り上げ増2社）



EVモーターズ・ジャパン  
ゼロエミッションe-PARK

##### 新技術・工法の開発

- 松本工業：溶接レス結合工法（カシメ工法）を開発
- 戸畑ターレット工作所：アルミ鍛造等の新技術導入による車載用ECUケースの開発

##### EVモーターズ・ジャパン、北九州に体感型EV複合施設建設（R5）

- 若松区向洋町（工場、テストコース、EV資料館など）
- 新規雇用：50人～100人を増員予定

##### 半導体

- 北九州半導体ネットワークの設立（R4.7）
  - ・会員数：43社（販路拡大、企業間交流、技術・研究開発など）

##### 半導体企業の集積

- 設計・開発企業「シンコム」学研都市に拠点開設（R5.4）
- 年内に30名体制、将来的には100名規模に拡大



シンコム開所式（R5.4.5）

##### 学研都市「クリーンルーム」を活用した人材育成講座（R5年度）

- 半導体の設計から評価まで一貫した環境での実習メニュー



2号館 共同研究開発センター  
（クリーンルーム）

##### ロボット・デジタル

- 北九州ロボットフォーラム（H18設立）
  - ・会員数：242団体・個人（産学連携によるロボット研究開発、人材育成など）
- 北九州市DX推進プラットフォーム（R2設立）
  - ・会員数：406社（セミナー、相談、補助事業などによるDX推進）

##### 地域企業のDX・事業変革

- 経産省DXセレクション全国8社中市内企業3社受賞（過去2年）

##### ロボット関連スタートアップ創業

- 九工大発ロボットベンチャー「TriOrb」(R5)

##### デジタル関連企業の集積

- 日本IBM、ウイングアーク1stなど



ウイングアーク1st  
連携協定締結式（R5.7）

#### 未来産業振興にあたっての課題認識

- 【①産学連携の促進（研究開発プロジェクトへの参加企業数、事業化件数が減少傾向）】
- 【②企業を取り巻く環境変化への対応（半導体・次世代自動車（EV・CASE）・カーボンニュートラル等の世界的な動き）】
- 【③高度人材の育成・確保（学研都市卒業生の地元就職率約9%）】 【④学術研究都市への更なる「知」の集積（業界をリードする先端企業の誘致など、学研入居率約70%）】

## ④ スタートアップ支援

### 政策の方向性

①市内スタートアップの創出・成長、②市外スタートアップの呼び込み、③テック系スタートアップ・エコシステムの形成に重点を置いたスタートアップ支援を推進し、若者が挑戦できるまちを目指す。  
 加えて、④スタートアップと地元ものづくり企業の掛け合わせによるイノベーション創出に取り組む。

＜北九州市のポテンシャル＞

【①理工系人材】 【③ものづくり】 【④学研都市】

#### 【現在のKPI】

- ・市内スタートアップ
- ・支援スタートアップ資金調達額
- ・本市への外国企業・機関の拠点設置、協業件数

#### （目標）

累計100社（R2～6年度）  
 累計100億円（R2～6年度）  
 5件（R5年度）

#### （実績）

累計62社（R2～4年度）  
 累計52億円（R2～4年度）  
 2件（R4年度）

（参考）  
 3件（R2～4年度）

### スタートアップ支援の現状・実績 R2年7月（国のエコシステム拠点都市に採択）～R4年度

スタートアップ°SDGsイノベーショントライアル事業  
 （実証実験・事業展開へ補助金を交付）

#### 01 実証支援



九州工業大学・  
 北九州工業高等専門学校 発

ロボットハンド・  
 AI画像認識を  
 活用した自動化  
 ロボットシステム



→資金調達達成や国のJ-Startup選定につながる！

#### 02 事業化支援



製造業などの現場向け  
 ビデオ通話アプリ  
 「SynQ Remote」



グローバルアクセラレーション  
 プログラム

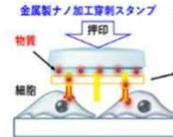
民間主体（安川電機・  
 TOTO・第一交通産業  
 等）の伴走支援

ハイツテック

HYNTS TECH

早稲田大学 発

タンパク質などを細胞  
 内部へ導入、また細胞  
 内物質を抽出する  
 ツール



海外展開支援・  
 対日投資促進

海外エコシステム交流



創業機運醸成



項目	実績
市内スタートアップ	62社
支援スタートアップ°資金調達額	52億円
本市への外国企業・機関の拠点設置、協業件数	3件

期待の大学発  
 テック系スタート  
 アップ誕生！

九州工業大学 発  
 （トライオーブ）



設備投資  
 雇用創出

EV組立工場建設  
 （EVモーターズ・ジャパン）



### スタートアップ支援にあたっての課題認識

①大学発スタートアップの起業につなげる事業プロモーター機能がない ②テック系スタートアップの創出・成長には、CxO人材、充実したラボ・設備、継続的な資金が必要、③外国企業・外国人材（留学生等）の相談・受け入れ体制の強化が必要

## ⑤ 中小企業振興

◆ 政策の方向性 中小企業の経営資源（ヒト(人材)・モノ(設備)・カネ(資金・売上))の強化により企業の成長を支援し「中小企業が稼げるまち」を実現

<北九州市の強み> 【①理工系人材】 【②物流】 【③ものづくり】

### 【KPI】

○市内中小企業の付加価値総額 5年で5%向上  
○中堅企業※へ成長する企業数 3社/年  
※売上10億円又は100億円達成企業

(参考：国の目標)

○1人あたり付加価値額 5年で5%向上  
○中堅企業※へ成長する企業数 400社/年  
※資本金3億円以上かつ従業員300人以上など



### 中小企業振興の現状・実績

#### 現状1：市内の産業の付加価値額

- 付加価値総額 1兆9,602億円
- 一人あたり付加価値額 462万円

全国	北九州市	比較
599万円	462万円	▲137万円

R3経済センサス,大企業含む

#### 現状2：中小企業実態調査結果(R4.6)

- 経営課題：売上不振・減少 48.4% 1位
- 取組予定：新規顧客開拓 31.6% 1位
- DXに取り組んでいない 63.9% 1位
- 後継者不在 42.1% 1位
- 市に望む支援：金融支援 33.3% 1位

#### これまでの主な取組

##### ■ヒト（人材確保・育成支援）

- 職場環境改善支援助成金（H29～）  
45件、新規採用(女性115人、高齢者33人)
- 経営リーダー育成事業（H6～）  
1,783人受講
- 合同説明会、若者向け就職支援等【再掲】

##### ■モノ（設備投資支援）

- 先端設備等導入計画認定（H30～）  
567件、新規設備投資（計画額）235億円
- DX推進補助金（R4実績）83件
- 産業用ロボット導入支援（令和元年～）  
採択件数32件

##### ■カネ（資金調達・売上拡大支援）

- 中小企業融資（R4末残高）：9,671件、895億円
- 信用保証料補填（R4実績）：5億円
- 中小企業技術開発助成（S59～）：365件、13億円助成⇒売上増加額255億円
- 北九州オンリーワン企業認定（H20～）：28社
- トライアル商品認定（H20～）：58件
- 大規模展示会出展支援（直近5年間）：61件、成約417件
- 海外展開支援（直近5年間）：海外ビジネスマッチング成約件数122件



### 中小企業振興にあたっての課題認識

- 【①低い労働生産性】一人あたり付加価値額は全国水準を137万円下回る。DXに取り組んでいない中小企業が多い。
- 【②売上拡大に向けた取組】多くの中小企業が「売上不振・減少」を経営課題と認識している。
- 【③後継者不足への対応】後継者不在企業が多い。
- 【④円滑な資金繰り支援】社会・経済情勢の急激な変化に対応した融資制度の柔軟な運用。



## ⑥商業・サービス産業

### ◆政策の方向性

都市の魅力を高め「稼げるまち」の実現につなげるため、①まちの賑わい創出、②各商店街が抱える課題解決に向けた支援、③商業・サービス産業事業者の経営力（ヒト・モノ・カネ）の強化に取り組む

### <北九州市のポテンシャル>

【180万人を超える商圏人口】 【中心市街地への良好なアクセス】 【豊富なリノベーション実績】

#### 【現在のKPI】

○主要商店街の新規出店数（空き店舗補助活用分）  
○主要商店街の空き店舗率

#### （目標）

累計50件（R2～6年度）【過去実績より年10件×5年（R2策定）】  
16.3%以下（R5年度）【コロナ前（H27）の空き店舗率】

#### （実績）

累計99件（R2～4年度）  
18.6%（R4年度）

### 商業・サービス産業の現状・実績

#### これまでの主な取組

- 商店街への各種補助金  
（共同施設整備費、イベント開催等への支援）
- シャッターヒラクプロジェクト  
（空き店舗入居者への補助）
- リノベーションまちづくり  
（建物オーナーとリノベーションプランのマッチング）
- 商業・サービス産業の支援  
（健康・生活産業の創業支援、商業人材育成事業  
食品産業の販路拡大、生産性向上支援）

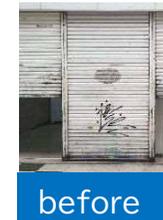
#### 直近5年間（H30年度～R4年度）の実績

空き店舗補助	新規出店数	122件
リノベーションまちづくり	事業化物件数	30件
	新規雇用者数	215人

#### 賑わいづくりイベント 商業人材育成セミナー



#### リノベーションまちづくり



### 商業・サービス産業振興にあたっての課題認識

- 【①商店街経営者の高齡化・後継者不足】
- 【③インバウンドやキャッシュレス等デジタル化への対応の遅れ】
- 【⑤商店街共同施設の老朽化への対応】
- 【⑥低い労働生産性】

- 【②郊外型大型店舗やEコマースなど購買行動の変化への対応】
- 【④商店街に集客力のある店舗の出店】
- 【⑦商店街対策が中心となった取組（サービス産業支援の手薄）】

## ⑦観光・MICE

### ◆政策の方向性〔北九州市観光振興プラン（令和5年4月改定）基本目標より〕

- ①「夜景」「門司港レトロ・城下町小倉の歴史文化」など、北九州市がこれまで育ててきた魅力の一層の向上
- ②急回復するインバウンド需要・福岡市域を含む周辺都市圏400万人のマイクロツーリズム需要の取り込み
- ③もう一か所、もう一泊を楽しむ「プラスワン観光」の推進による滞在時間の延長

⇒「暮らす人」「訪れる人」がともにわくわくする観光・交流都市の実現

#### <北九州市のポテンシャル>

- 【歴史・文化・自然・食等バラエティ豊かな観光資源】
- 【陸海空の結節点、関西・福岡市との好アクセス】
- 【出張・MICEなど底堅いビジネス需要】
- 【観光振興財源（宿泊税）が確保されている】

#### 【現在のKPI】

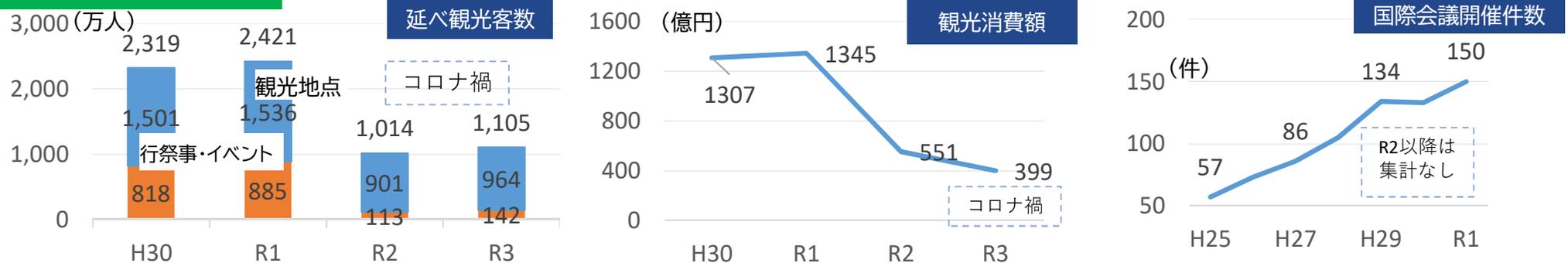
	(R7時点目標)	(コロナ禍前(R元年))
○観光客数（延べ人数）	3,000万人	2,420.8万人
○宿泊客数	240万人	192.9万人
○観光消費額	1,700億円	1,345億円
○市民の満足度	75%	65.7% (R3年)

### 観光に関する現状・実績

#### これまでの主な取組

- 「夜景」「門司港レトロ・小倉城」などの観光資源の磨き上げ
- 観光情報サイト「ぐるリッチ北Q州」などを通じた観光・イベント情報の発信
- 「日本新三大夜景」を活かした夜型観光の振興
- グローバルMICE都市として国際会議の誘致促進

#### 現状



#### 観光振興にあたっての課題認識

- ①インバウンドなどコロナを経て、急回復する観光需要の取込  
 <<対応>>・インバウンドアクションプランの策定  
 ・関西・広島・福岡市などとの広域連携の強化 等  
 (プラチナルートの構築)

#### ②来訪者の市内滞在の長時間化、宿泊観光の促進

- <<対応>>・観光動態等のデータ分析を通じた市内周遊施策の立案  
 ・ナイトタイムエコノミーの促進 等

#### ③観光産業全体の生産性向上・雇用拡大（「稼げる観光」の実現）

- <<対応>>・民間事業者による観光分野への挑戦・投資などの促進  
 DX推進への支援 等

## ⑧人材確保・育成

### ◆政策の方向性

地域人材の定着と育成により、地域企業の成長を促し、さらなる人材を呼び込む好循環をつくるため、①若者の地元定着 ②U・Iターン人材の獲得 ③多様な人材の活用 ④人材育成 に重点を置いた雇用施策の展開

<北九州市のポテンシャル> 【ものづくり企業の集積】 【情報通信企業の進出】 【大学・高専等の教育機関の集積】 【文・理系人材の輩出】

#### 【現在のKPI】

	(目標)	(実績)
○九州山口一円の学校からの市内企業への新卒就職者数	4,600人/年 (R6年度)	4,147人 (R3年度)
○市内企業へのU・Iターン就職者数	1,200人 (R2~6年度)	670人 (R2~4年度)
○中高年齢者の就職者数	3,500人 (R2~6年度)	2,523人 (R2~4年度)

### 地元定着と人材育成の現状・実績

	これまでの主な取組	直近5年(H30~R4) 実績		これまでの主な取組	直近5年(H30~R4) 実績
地 元 定 着	合同会社説明会、インターンシップの実施	参加者 (合説) 8,878人 ( I S ) 1,545人	多 様 な 人 材	女性向けの就職支援の実施 (ウーマンワークカフェ北九州)	就職決定者 3,441人
	若者向けの就職支援の実施 (若者ワークプラザ小倉・黒崎)	就職決定者 5,201人		高年齢者向けの就職支援の実施 (高年齢者就業支援センター)	就職決定者 4,119人
	U・Iターンによる移住転職の実施	就職者 1,121人		外国人留学生向けの就職支援の実施 (外国人材就業サポートセンター)	マッチング件数 80件 ※R2開設~R4
U ・ I			人 材 育 成	IT分野の学び直しと、人手不足 分野の資格取得 (建設・介護・製造)	就職決定者 (IT) 46人 (資格取得) 107人 ※IT: R3~4 人手不足: R2~4
				DX推進に向けた企業内人材の育成 (経営者・現場リーダー向けスクール)	参加者数 (経営者) 81人 (現場リーダー) 1,298人 ※経営者向け: R1~4



合同会社説明会開催



若者WP (カンセリング)



転職フェア出展

### 人材確保・育成にあたっての課題認識

#### ①人材の流出 (若者人気企業の少なさ)

雇用者数	25~44歳 ▲15.8% (全国▲10.9%)
H27→R2	全 体 ▲2.9% (全国 0.7%)

#### ②企業の人材不足 (職種間のミスマッチ)

有効求人倍率	建設・介護・製造: 3~5倍 事務・情報通信: 0.5倍
--------	---------------------------------

#### ③就労可能人材の活用 (女性・シニア)

就業率	女性(25~29歳): 79.1% (全国 82.5%)
	高年齢者: 23.3% (全国 26.5%)
	外国人(15~64歳): 42.2% (全国 51.2%)

#### ④雇用の質向上 (非正規の正規化)

非正規率 (不本意非正規率)	34.7% (全国 34.4%) (14.0% (全国 12.6%))
-------------------	--